

2つの事務所が合併し、5人の税理士で 設立した税理士法人のビフォーアフター

「税理士法人グッドパートナーズ会計事務所（岐阜県岐阜市）」

父親が開業した税理士事務所を子息が承継するのはごく普通の出来事だ。しかし、ここにふたりの父親、ふたりの子息がいつしよになつて設立した税理士法人がある。そこに子息と同年齢の税理士も加わり5名の税理士を擁する事務所が誕生したのは03年10月のこと。以来、1年4カ月が過ぎた今、この5人の税理士は個人事務所時代とどう変わったのだろうか。



写真左から小原義光、荻谷悦利、高橋和宏各氏

JR東海道線西岐阜駅から歩くこ

と3分。十字路の角に潇洒なたたずまいのビルがみえてくる。ガラス張りのビルはまるで美容院のよう。ビルの入り口にある社名でようやく会計事務所であることが分かる。税理士法人グッドパートナーズ会計事務所

の社屋は一昨年10月、税理士法人設立のために新築された建物だ。「ガラス張りといい、吹き抜けのフロアといい全部、高橋のこだわりの結集なんです」と事務所を案内してくれるのは二人いる代表社員のひとりである荻谷悦利税理士。その隣にはもうひとりの代表社員である高橋和宏税理士がいる。

「会計事務所らしくない事務所づくりというのがテーマでした」と語るのは高橋氏。

荻谷氏も高橋氏も共に昭和34年生まれの同い年。そしてもうひとりの税理士・小原義光氏も同じ34年生まれだ。

「毎朝8時、事務所の始業は9時なのですが、1時間前に3人は出社してミーティングをします。困ったこと、相談したいこと。3人寄れば文殊の知恵ではありませんが、いろいろな意見が出るので、より高度な判断ができるのは間違いありません。個人事務所ではこのように毎日の意見の交換はできません。それだけでも法人化したメリットは大きいです」（小原氏）

グッドパートナーズの名前を体現するようなチームワークが同事務所の「売り」なのかもしれない。税理士法人化の狙いについてたず

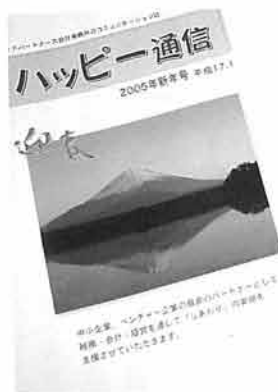
ねると、異口同音に同じ答えが返ってきた。

「法人化に際して考えたのは将来のことです。それまでの事務所の歴史、売上など考慮に入れ始めればいろいろなことではありますが、それら目先のことは一切排除して将来のことを考えました」（高橋氏）

「私は東京の事務所で働いていたのですが、父が病で倒れ、急遽私が実務をすべて見ることになりました。戻ってきて右も左も分からないまま意識のない関与先の経営者とコミュニケーションをとりながら業務をこなしていく毎日ほとんどにストレスの連続でした。と同時に思ったのが将来の不安です。自分が病気になるから関与先の企業はどうなるのか。たいへんな迷惑をかけることになってしまふ。そして事務所はどうなるのか。こうした不安は個人事務所である限り拭い切れません」（荻谷氏）



ビルの外観



事務所のパンフレット(写真左)と
事務所通信「ハッピー通信」

同じ税理士会の支部仲間である荻谷氏と高橋氏は税理士法人の制度が始まる前からこうした気持ちを語り事務所の将来を話し合ってきたという。

「将来のことを考えてというスタンスがいつしよという点が他人同士で税理士法人を作る際にとっても大切だと思います。性格的な相性はあとでついてきます。結果的に私は営業担当、高橋は業務担当という役割分担ができています」(荻谷氏)

同事務所では法人化以降、この3

人に二人の父親を合わせた5人の税理士がいる事務所という点をアピールしている。事務所案内のパンフレットにもトップページに5人の写真と並べてその信頼性の高さをビジュアルで表現している。

「法人化してからのお客様の反応はおおむね良好です。というのかわれわれが自信をもって事務所のサービスを提供できるようになったことが大きいと思います。私にお任せください」という個人事務所のスタンスではなく、「私たちにお任せください」と言えるのは強みです」(高橋氏)

事務所の理念は「しあわせを考えます」

同事務所の理念は「しあわせを考えます」という言葉に象徴される。

しあわせはお客様のしあわせであり、地域のしあわせであり、私たち自身のしあわせだ。

「別々の個人事務所がひとつになってサービスを提供していくには共通した理念が必要だと考え、いろいろ話し合った結果、しあわせという言葉キーワードにしました」(荻谷氏)

同事務所の事務所通信のタイトル「ハッピー通信」にもこうした理念が表れている。また、この事務所通信はその内容も個性的だ。よくある事務所通信といえ、税務会計のニュース、情報が主たる内容だが、この「ハッピー通信」はちょっと異なる。事務所の職員の紹介、職員が自分で書くコラム、身辺雑記がメインの記事なのだ。例えば「Y字バランスできますか？」とバレーナバりの写真を掲載したり、事務所の新入社員歓迎会や確定申告打ち上げ会の様子を写真入りで紹介している。

「お客様を訪問する担当者自身の写真が載っている事務所通信はお客様との会話のきっかけになります。お客様も楽しんで見ていただけようなのでこんな体裁にしました」(高橋氏) 個人事務所から税理士法人に変わって、組織としての事務所つくりを着々と進めている様子がかがえる。